



真龍小学校の教育目標

- ①心と体をきたえる子
- ②美しい心をもつ子
- ③考えて行動する子
- ④生き生きと学ぶ子

子供が育つ環境を整える

校長 渡辺 仁平

小学校の教育計画は、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動によって編成するものとするのが、法令等に示されています。学校における教育活動は、その計画に基づいて、国で定められている目標の達成に向けて展開されています。

また、学校における教育活動は多様です。休み時間や放課後に行われる個別的な指導や補充指導などは、国で定められている教育計画に位置づいてはいません。

こうした学校における様々な教育活動は、教師と子供の信頼関係や子供相互の好ましい人間関係を基盤に営まれることによって、その効果が高まるものです。

そのため、本校では、次のことを大切にして、子供の人間関係を核とする環境を整えることに努めています。

1つは、子供の理解を深めることです。

教員は、日ごろから一人一人の言葉に耳を傾け、ものの見方や考え方、感じ方などを理解しようという姿勢が求められます。また、子供の不安や悩みに目を向け、共感的に理解し、それを深めることが大切です。子供の指導は、子供の理解に始まり、子供の理解に終わると言われているところです。

2つは、教員と子供との信頼関係を築くことです。

この信頼関係は、子供と共に歩む教員の姿勢、授業等における子供の充実感・達成感を生み出す指導、子供の特性や状況に応じた的確な指導と不正や反社会的行動に対する毅然とした指導などを通じて形成され、深められていくものです。教育は積み上げです。ですから、プラスの要因もマイナスの要因も積み上げられていくから怖いのです。自然発生的に関係を築くのではなく、教員としての意図をもって関係を築いていくことを大切にしています。

3つは、子供相互の人間関係をつくることです。

これは教科の指導やそれ以外の学校生活のあらゆる場面で行っていく必要があります。自他の個性を尊重し、互いの身になって考え、相手のよさを見付けようと努める集団、互いに協力し、よりよい人間関係を主体的につくっていかうとすることを基盤とした豊かな集団生活が営まれる学級や学校の教育的環境を形成することが重要であると考えています。

子供を取り巻く人間関係にかかわる環境をよりよくするためには、学校だけではなく、家庭も重要な役割を担っていると思います。

家庭内の人間関係や保護者の皆様の教育についての考え方、家庭を取り巻く状況性など、それぞれですが、子供が成長する過程で作りあげていくものの見方、考え方、感じ方など、家庭環境は子供に大きな影響を与えています。また、学校における教育活動を進める上での基礎になる基本的な生活習慣の形成にも家庭環境は重要な役割をもっています。

保護者の皆様は家庭教育の意義や役割を十分に認識されていることとは存じますが、これまで以上に子供の生活基盤としての環境を整えられ、子供の心のエネルギーが十分に蓄えられるよう各担任との協力関係を深めてほしいと願っています。

平成28年9月30日発行 No. 8

10月のこよみ

日 曜	行事
1 土	
2 日	
3 月	朝会(講話・開校記念)
4 火	運動の日(外) ALT(6年)
5 水	避難訓練
6 木	ALT(3年) 読み聞かせ
7 金	特別日課 クラブ④ ALT(5年)
8 土	
9 日	
10 月	体育の日
11 火	
12 水	ALT(6年) 就学児知能検査
13 木	特別日課 係活動①
14 金	職員会議
15 土	厚岸町防災講演会(体育館使用)
16 日	
17 月	
18 火	ALT
19 水	
20 木	特別日課 係活動②
21 金	開校記念日(真小)
22 土	
23 日	
24 月	
25 火	特別日課 街頭指導 係活動③
26 水	総練習(児童公開日)
27 木	バス通学指導
28 金	特別日課 係活動④ 会場準備
29 土	土曜授業日(3時間時程)
30 日	学習発表会 自転車終了 後片付け
31 月	振替休業日

前期から後期へ

今週に入り、子どもたちに手渡された通知表が、保護者の方の温かい返事を書き込んでもらって担任の手元に戻ってきています。

その返事から、「がんばったねと話しました。」「後期も頑張る！と言っています。」など、子どもを励ます材料としてこの通知表を使っていたという様子が伝わってきました。

前期終業式と後期始業式では、児童の代表と学年の代表から、前期に頑張ったことや後期に頑張りたいことなどの発表がありました。



この時期を節目に、また新たな気持ちで好スタートを切ってもらいたいですね。

津波避難訓練

自分の命は、自分で守るための思考力や判断力を育むために、9月1日の防災の日に合わせて、避難訓練を実施しました。

子どもたちが避難する様子で、特に感心したのが、コンキリエに到着する低学年の子たちに、高学年の子たちが、優しく声をかけてスムーズに並べていたことでした。このことは、昨年度の訓練で、校長先生から「できていない。」と注意されていたことです。今年は、それができていたということは、その反省が生きていたという証拠だと感じました。



体力向上の取り組み

先日発行された「健康部だより」に、体力テストの結果と分析が載っていました。そこには、課題であった、『走る力』が伸びたことが書かれていました。そこで、体育専科の藤井先生に、インタビューしました。

Q 今年度、走力を高めるために行ってきた取り組みについて教えてください。
今年度は、体育の授業で以下の事を子どもたちに意識させるような工夫をしてきました。

- ①まっすぐな姿勢で走る→背筋をまっすぐにして歩く。走る。
 - ②弾む足の裏→つま先で地面を蹴って、身体を弾ませる。(スキップ等)
 - ③鋭い腕振り→肘を90°にして空気を切るように振る。(顔の前、お尻の後ろ)
 - ④スタートの構え→前脚体重で上体を前傾させて地面を蹴る。
- このように、日常の授業に少し工夫を加えて、子どもたちに意識させたことが、走る力を高めたひとつの要因かもしれません。



Q 今後の体力向上の取り組みで計画していることはありますか？

小学生は見よう見まねで新しい動きができるようになる時期です。良い動きからコツやポイントを見て学んで、遊び感覚で運動経験を積み重ねることで能力が向上していきます。

そこで、「チャレンジ企画」をすでに進めています。その内容は、体力テストの8項目について、学年トップや学年平均、先生方の記録を掲示することで児童の意欲を喚起し、朝や帰り、休み時間等に児童が自主的にチャレンジする取り組みです。低学年の子たちが高学年のお兄さんやお姉さんの動きを真似しながら、コツやポイントをつかんで、運動への関心を今以上に高めてくれると嬉しいですね。

真龍おはなし隊からの9月のおすすめ本紹介

◇「とっておきのカレー」

- ・きたじま ごうき (作・絵)
- ・絵本塾出版 (発行)

みんなカレーは好きですか？

みんなのうちのカレーにはなにがはいっているのか知っていますか？

にんじん、ジャガイモ、たまねぎ、おにく？ ほかになにがはいってる？

ちいさなやまごやおじさんがつくる、とっておきのカレーはとってもおいしくて、みんなだいすき。

おじさんのつくるおいしいカレーにはいったいなにがはいっているのでしょうかね。

家庭学習していますか？

本校の家庭学習の手引きである、「家庭学習で力をのばす」は、ご家庭で掲示していただいていると思いますが、その中に、家庭学習とは、①学校から出される宿題と②自分でやることを決めてとりくむ自主学習のことであると書かれているように、学校と家庭が協力して、子どもたちの家庭学習の状況を見守っていただくことが大切になります。お子さんに学習の習慣を身につけさせるために、声をかけたり、ノートを見て誉めてあげたり、〇つけをしてあげたりしていただけるご家庭が増えることを願っています。

